



イラン・イスラム共和国 (Islamic Republic of Iran)



- 日本は、長年イランとの伝統的な友好関係を築いてきた。イラン人は日本を「伝統を保持しつつ、経済発展を遂げた国」として評価し、日本の高度な科学技術に対する関心は非常に高い。
- これまで日本はODAを活用し、住民参加型の農村開発プロジェクトや高度医療を可能とする医療機材の整備等の人道支援を行ってきた。イランの開発に寄与するだけでなく、良好な二国間関係の強化にも貢献してきた。本年1月の対イラン経済制裁解除後の国際的なイラン経済への関心も踏まえながら、イランに対する経済協力を実施していく。

国概要

(基礎データ)

- ・ 面積: 1,648,195平方キロメートル(日本の約4.4倍)
- ・ 人口: 7,910万人(2015年)
- ・ 首都: テヘラン
- ・ 民族: ペルシャ人(他にアゼリ系トルコ人、クルド人、アラブ人等)
- ・ 言語: ペルシャ語、トルコ語、クルド語等
- ・ 宗教: イスラム教(シーア派が主体、その他キリスト教、ユダヤ教、ゾロアスター教等)
- ・ 政体: イスラム共和制
- ・ 議会: 一院制(290議席)
- ・ GDP: 3,876億ドル(2015年)
- ・ 一人あたりGDP: 4,877ドル(2015年)
- ・ 経済成長率: 0.0%(2015年, IMF)
- ・ 失業率: 10.8%(2015年)

※特に注がない場合は外務省ホームページをもとに記載。

(略史)

BC3C – AC7C	ササン朝ペルシアが大版図を築く
1925年	パフラヴィー(パーレヴィ)朝成立
1979年	イスラム革命
1980-1988年	イラン・イラク戦争
1989年	ホメイニ師逝去後、ハメネイ大統領(当時)が最高指導者に選出される
2002年	未申告の核開発活動が発覚
2006年以降	制裁関連安保理決議の採択(計7本)
2013年	ローハニ政権発足
2015年	EU3+3と核合意(JCPOA)に到達
2016年	「履行の日」到来により、経済制裁一部解除

援助実績

スキーム	額(累計)／人数(延べ)
円借款	約810億円 (2014年度末時点)
無償資金協力	約46億円 (2014年度末時点)
技術協力	約275億円 (2014年度末時点)

出典: ODA国別データブック2015

青年海外協力隊事務局統計(平成28年6月末)

(注) 青年海外協力隊には、短期派遣ボランティアを含む。

経済関係

スキーム	金額／人数(直近年)
日本からイランへの輸出	約348億円 (2015年, 財務省貿易統計)
イランから日本への輸出	約3,934億円 (2015年, 財務省貿易統計)
日本からイランへの直接投資	5億2,900万ドル (1979-2013年の累計額, JETRO)
在イラン日系企業数	32社 (2015年10月時点, JETRO)

人的つながり

項目	人数(直近年)
イランにおける在留邦人数	619人 (2015年10月時点, 外務省統計)
在日イラン人数	3,996人(2015年12月, 法務省統計)
日本からイランへの留学生数	55名以上(2014年度, 文科省統計)
イランから日本への留学生数	203名 (2015年5月時点, (独)JASSO調査)
日本からイランへの観光客数	5,809人(2013年, JNTO確定値)
イランから日本への観光客数	4,955人(2015年, JNTO確定値)

日本とイラン・イスラム共和国との協力年表

年代	案件
1929年	在イラン日本公使館開設 (1942年, 対日外交断絶)
1953年	日・イラン国交再開
1958年	日・イラン経済技術協力協定, 日・イラン文化協定締結
1960年	JICA技術協力プロジェクト開始
1963年	日・イラン司法共助取極締結
1974年	査証免除取極締結 (1992年4月より一部につき一時停止)
1974年	JICAイラン事務所開設
2003年12月	JICAがバム地震緊急援助隊を派遣
2004年	「バム遺跡修復・保存機材整備計画」に対し、文化遺産無償資金協力を実施(供与限度額1.12億円)
2005年8月	JICAイラン事務所再開
2009年	日・イラン外交関係開設80周年
2010年	イラン側の要請を受け、JICAが技術協力プロジェクト「地方自治体における参加型廃棄物管理」に複数の日本人専門家を派遣
2015年	FAOと連携し、「オルミエ湖流域における持続可能な水資源管理総合計画」を実施(供与限度額4.26億円)
2015年	日・イラン受刑者移送条約署名 1958年の日・イラン文化協定以来57年ぶりの二国間条約
2015年	「経済社会開発計画」を実施(供与限度額12億円)
2016年	日・イラン投資協定署名

日・イラン国交開設



ササン朝(227-651年)時代が起源とされ、サファビー朝(1501-1736年)時代に現代の形が確立されたといわれている世界最大規模の土の建造物であるバム遺跡「アルゲ・バム」が、2003年12月26日に発生した地震により、その80%以上が崩壊した。本計画は、同遺跡のより効率的な修復・保存用の機材の購入のために必要な資金を提供するもの。



日本では中曽根外務大臣(当時)、イランではモッタキ外務大臣(当時)出席の下、記念行事を実施した。

本条約は、2016年8月発効予定。

医療サービスの低下や医療機器の老朽化に直面するイランに対し、日本で製造された医療機材を同国に整備した。

林経済産業大臣(当時)と「イランとファイナンス・ファシリティの設定及びこれに対するイランの債務保証にかかる協力覚書」に署名。



主要ドナー対イラン経済協力実績 (2013年度, ODA国別データブック)

